集落を取り巻く社会変化と集落景観の継承における祭祀空間の役割
−タイ北部リス族の集落を対象として−

正会員　○大川璃紗*
正会員　清水郁郎**

タイ北部　少数民族　集落景観
祭祀儀礼　祭祀空間　住環境

１　研究の背景と目的

タイ北部の山地には、ミャンマーやラオスとの国境をまたいで分布する多数の少数民族社会が存在する。民族ごとに異なる世界観を持ち、独自の生活文化を築いてきたが、近代化による国家からの開発圧力や商品作物への生業転換、また世界宗教への改修によって、以前の暮らしから変化が見られる。本研究にあたり事前に訪問した村の中には、キリスト教や台湾系仏教などへの改宗が進行したため、伝統的な祭祀儀礼が実施されてない状況や、年長者の生活の知恵や技術の継承が困難になっていることが確認された。

また、複数の村の住人へのインタビューで、文化的な変化に対して寛容な態度であることが判明した。筆者はその背景に、潜在的・相対的に貧しさを抱える農村部における、村や家庭の経済的な成長に対する人々の切実な望みを認めながらも、一方でその「地域らしさ」が失われつつあることへの懸念を抱いた。

そこで、本研究では「地域らしさ」の継承における祭祀儀礼の役割と、集落での共同生活において祭祀空間が果たす機能に焦点を置き、集落景観と人々の精神性、信仰の関係性を導き出すことを目的とする。本論では特に、旧暦二月に集落で実施される新年祭期間中に実施した調査から分析を行う。

２　研究の方法

対象とする集落は、タイ北部チェンライ県のミャンマーとの国境付近に位置する H 村で、中国雲南省にルーツを持つとされるリス族の集落である。山地の斜面に形成された集落であり、周辺には他に複数の集落が存在するが、日常的な交流は同族の集落間で行われ、異なる民族集団との交流は行われない。村長の話によると、令和 7 年 2 月現在での総人口は約 1200 人（女性が約 800 人、男性が約 400 人）、世帯数は 240 で、その内伝統的な祖霊信仰を持つ世帯が 130、キリスト教を信仰する世帯が 90 である。高地の気候を生かしたコーヒー、ライチ、米やアボカドなどの農作物栽培を主生業としている。

まず、集落内の民家、集会場、儀礼空間などの立地を記録し、Google Map の航空写真を元に作成した地図上にプロットした。

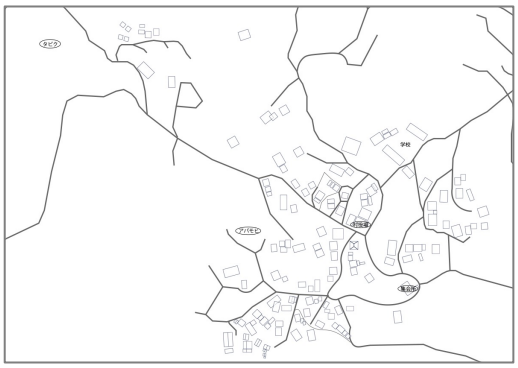

図１　H 村の集落配置図

次に旧正月の大晦日から 5 日間（令和 7 年 1 月 28 日から 2 月 2 日）、H 村の民家に滞在し、新年祭の期間に執り行われる儀礼と昼夜行われる輪踊りの観察と記録を行い、そこから祭祀空間における人々の振る舞いを掘り下げ、また撮影した動画から祭祀儀礼における人々の役割や行為の意味の分析を行なう。

さらに、聞き取り調査によって人々の住生活、集落の祭祀儀礼への参加頻度や伝統文化の継承に対する意識について整理した。そこから「地域らしさ」をどのように捉えているのか、また文化の継承が日常生活においてどのように行われているのかを考察した。聞き取り調査は、滞在中にお世話になった家族が親しくしている人々、新年祭の場と滞在中に実施されたタイの選挙投票所で声をかけて協力が得られた 32 名の回答について分析した。

３　研究の位置付け

社会変化を反映する祭祀空間の移り変わりに関する研究として、広東省広州の村落における時代と家屋形態の変化に伴う家屋内の祭祀対象の変化を考察した（川口，2010）では、全体としての象徴的な空間性は保たれていることを明らかにした。また、農村における祭祀空間の研究として、淡路島北淡町を対象とした（新田ら，2002）においては、景観要素や立地特性から分類された祭祀空間の場所性と地域住民の関わり方にみられる法則性を明

The Role of Ritual Space in the Social Change and the Inheritance of the Landscape
-A Case Study of the Lisu Settlement in Northern Thailand-

*Lisa OKAWA
**Ikuro SHIMIZU

らかにしている。また、リス族の新年祭での輪舞における人々の認識や参加形態の変化を考察した（内住，2020）では、2000 年代初頭の麻薬の取り締まり以降のリス社会において、輪舞が祖霊信仰を根拠とするものから世俗的な実践とした認識に変わりつつも、リス輪舞としての自己同一性を担保していることを考察している。

本研究では、これらの既往研究では言及されていない、祭祀空間や祭祀儀礼が集落景観の継承にいかなる機能を果たしているか、さらにある地域の文化の継承における超自然的なものの存在意義の根拠を明らかにできると考えている。

４　調査結果と分析

４-１　集落景観における祭祀空間の特徴

集落に存在する祭祀空間の場所特性を明らかにした結果、儀礼や輪踊りが行われ、「レパスタ」や「タビグ」などの名称で呼ばれる広場は、集落の一番高い位置に立地することが分かった。また、女人禁制とされ、男性たちによる儀礼が行われる「アパムヒ」と呼ばれる祠は、集落の中腹付近に位置することも分かった。タイ仏教寺院は、集落の中心から離れた高台の上に立地していた。一方で、キリスト教会とイスラム教会（現在イスラム教徒は存在せず、空き家のまま放置されている）は、民家に混ざるように立地していることが分かった。

４-２　新年祭期間中の祭祀儀礼

事前の文献調査から得た知識から、ニパと呼ばれるシャーマンが執り行う病気治癒の祈祷に関しては、先代が亡くなり後継者の不在によって、実施されなかった。筆者が滞在した期間中は、新年祭が休みとなったタイの選挙日以外は、午前 10 時前後からその日の儀礼が行われる広場に人々が徐々に集まりだし、有志の人々によって昼食の準備が始まり、その間に鶏を供犠するための儀礼が実施された。中央に柱が立てられた広場では、昼食の準備や儀礼に参加しない人々が昼過ぎまで変わるがわるに輪踊りを続けていた。午後 1 時半を過ぎたころに輪踊りと伴奏が止むと、人々が持参した供物を移動させ、民家の広さにもよるが、10 人弱の人々によって儀礼が行われた。その後、広場には長テーブルと椅子が配置されて昼食を食べ、夕方は各々で過ごし、夜 7 時ごろから再び広場に集まって輪踊りが始まり、深夜まで各家庭を練り歩きながら、踊りと音楽が続いていた。

４-３　H 村における住生活の実態

聞き取り調査の結果を集約すると、信仰によって異なる生活リズムが存在することが分かった。伝統的な精霊信仰者は、ワンシンと呼ばれる月 2 回の祝日を休日としていて儀礼や労働、動物を殺すことなどが禁止される一方で、キリスト教信者は毎週日曜日を休日とし、午前 9 時から教会で集会が行われる。参加する祭祀儀礼に関しては、新年祭には信仰の別なく参加するが、年間を通じては宗教によって異なる。また、回答にみられた傾向として、5 時半か 6 時に起床し、午前 8 時から午後 5 時に畑仕事をして、帰宅してから夕食をとり、午後 9 時に就寝するという生活習慣が多くみられたが、10 代の若者からは深夜遅くまで起きているという回答も得られた。

４-４　「地域らしさ」の継承に関する認識

聞き取り調査の結果から、集落の祭祀儀礼や伝統的な技術に関する継承が、各家庭において親から子供が学ぶ形で行われてきたことが分かった。またリス族らしい文化とは何かという質問に対する回答として、伝統衣装を挙げた回答者が多かったものの、これらを作る技術の継承は十分に行われておらず、自分で衣装を作ったと答えた回答者は 32 人中 1 名で、多くの家庭では、母親が家族全員分の民族衣装を訪問販売業者から購入していることが分かった。また、山地民の間で近年盛んになっているホームステイやコーヒービジネスに対する関心が若年層の間に広がっていることも確認された。

５　おわりに

新年祭期間の調査では、H 村の人々の住生活や宗教体系や伝統的文化の継承に関するおおまかな現状を知ることができた点において、成果が得られた。一方で、本研究で目的とする、集落景観や文化の継承における物理的要素と精神的要素の複雑なシステムの関係性の深層を探るためには、さらにH村固有の事実に対する理解や、詳細を掘り下げる必要性がある。

今後の調査においては、引き続き H 村の集落景観における祭祀空間の特性と祭祀儀礼の分析を進めるとともに、自然条件、家屋の形態や立地特性などの実測的な調査や、人々の住生活、家屋内の住空間の実態調査、さらに山地民族とリス社会を取り巻く社会状況の解明を目指していく。

＜参照文献＞
１）川口幸大（2010）「村落の社会変化と祭祀空間としての家の変遷」近代中国革命、社会転型與国際視野―第四届現代中国與東亜格局国際学術研討会 論文集 p.159-183
２）新田佳代、林まゆみ（2002）「農村祭祀空間の場所性と地域住民との関係性に関する研究：淡路島北淡町の事例から」農村計画論文集第 4 集 p.211-216
３）内住哲生（2020）「円環のコレオグラフィー：タイ北部リスの舞踊をめぐる考察」首都大学東京 2020 年度博士論文
４）O.Klein Hutheesing (1997), Emerging Sexual Inequality Among the Lisu of Northern Thailand, Brill
５）綾部真雄（1998）「国境と少数民族：タイ北部リス族における移住と国境認識」東南アジア研究 35 巻 4 号 p.171-196

*芝浦工業大学大学院建築学専攻　修士課程
**芝浦工業大学建築学部　教授　博士（文学）

*Graduate Student, Graduate School of Arch., Shibaura Institute of Technology
** Ph.D., Prof., School of Arch., Shibaura Institute of Technology